

いじめから、子どもたちと命を守るために  
他人を思いやる「優しい心」を広めて、いじめをなくす



## 小森美登里さん

聞き手 編集部

特定非営利活動法人ジェントルハートプロジェクト 理事

16年前にひとり娘の香澄さんをいじめにより亡くした小森さん。その後、いじめ根絶のために全国の学校、教育委員会などで講演会や勉強会を精力的に展開しています。その内容は加害者糾弾ではなく、子どもたちの心に寄り添う温かい「ジェントルハート」に満ちあふれています。

### 義務教育の現場が 治外法権ではないけない

「娘さんの香澄さんはいじめで亡くなったわけですが、最初、講演のために「学校」という場所に行くのは嫌ではありませんでしたか。」

小森 初めて学校で講演することになったときは、正直、行くのが嫌でした。うちの子を守ってくれなかった場所、真実を明かしてくれずに、嘘をつくのが学校であり、先生だと思っています。最初の講演で行った学校のスリッパを履くのも嫌だし、廊下

で向こうから歩いてくる先生を見れば、脛でも蹴飛ばしてやりたいくらいでした。でも、学校にいる子どもたちを守りたい一心で、そんな自分の感情をのみ込んで活動しているうちに、だんだん気持ちが変わってきたのです。「この先生たちを助けなくっちゃ」って。先生たちも多忙だし、いじめについて全然分からなくて困っている状態だし。まず、先生の気持ちに寄り添って、助けて、しっかりといじめについて分かってもらわないと、結果的に子どもたちは守れないなって。

「先生が大変というのは、子どもが先

## PROFILE ●こもり・みどり●

1957(昭和32)年、神奈川県生まれ。元文部科学省いじめ問題アドバイザー、滋賀県いじめ対策研究チーム会議委員。1998(平成10)年、高校1年生だったひとり娘の香澄さんをいじめによって亡くし、2003(平成15)年、夫の新一郎さんとNPO法人ジェントルハートプロジェクトを設立する。現在、年間100本以上の講演会や勉強会、いじめで亡くなった子どもたちのパネル展や、音楽で優しさを伝えるコンサートなど、いじめをなくす活動をしている。著書に『優しい心が一番大切だよ～ひとり娘をいじめで亡くして～』『いじめのない教室をつくろう』(すべてWAVE出版)など。

【特定非営利活動法人ジェントルハートプロジェクト】  
<http://www.gentle-h.net/>

生のいうことを聞かなくなっているからですか。それは、子どもが先生を信じていないということかなと思います

**小森** 子ども達がなかなか先生を信じられないのも事実です。下手に動かれて問題を大きくされたくないと言っていた子もいました。その反面、多くの子ども達が、いじめの相談を先生にしているのも事実です。

—親にはなぜ相談できないのでしょうか。

**小森** 全然信頼していないから言わない場合と、好きだから言わない場合と、いろいろあります。「親とコミュニケーションがちゃんと取れていれば、子どもは何かあったとき、親に相談してくれる」というようなことが文部科学省から通知されたこともありませんが、実際に子どもたちに聞くと「大好きだから、まさか親には言えない」と言うのです。心配かけたくないし、自分がいじめられているということや自分が認めるのも、子どもにとっては

プライドを1回崩すことで、つらいことなんです。自分がいじめられているかわいそうな存在だって、親や先生、友達に見られたくないんです。

—人は、自信や尊厳をなくしたら生きていけないですよね。

**小森** ジェントルハートでは、いじめの定義を「心と命の暴力」としています。言葉のいじめや無視くらいで自殺する子は弱いという人が多くいます。そういう人は、出血多量や内臓でも強打しないと、人は死なないと思っっている。でも実際は、そうではないですね。体と心はつながっている。大人でも誰かに一言言われたことが気になって、夜も眠れない経験をしたことはあると思うんですよ。いじめられている子たちは、それが毎日365日24時間続くんですね。今は携帯によるいじめが増えていて、しかも最近防水携帯が

て対処していった方がいいと思います。

—義務教育の場が、法の及ばない危険地帯になっているかもしれない。けれども義務教育ですから、親は通わせないわけにも行かないです。

治外法権になるのです。いじめの被害者の親は、もちろん警察に届けに行きますが、大抵の場合は受理されませんし、受理されても捜査してもらえません。また、学校側が文書偽造をしたり、真実を明かさなくても、法には問われません。この理由は分かりません。大津のいじめ事件のように、マスコミに大きく取り上げてもらえれば別ですが、ほとんどのいじめ事件は、表面化されていません。公表されているデータの数字は、まったく意味がない。自殺した子どもは、警察庁の調べで年間353人いるのに、その原因がいじめであるというものが文科省の調べでは小学生、高校生0人、中学生で4人(図1)というの、ふつうに考えても不自然だと分かります。学校ではだいたい原因不明として扱われてしまっている。だから明るみに出ているのは、本当に氷山の一角で、いじめはどの学校、どのクラスにもあると思っ

できてしまったので、子どもの逃げ場がありません。お風呂にも携帯を持って行って、いじめる側からメールが来たら、3分以内に返事をしないとならないという「3分ルール」がはやっていっているのです。3分超えたら、次の日は完全無視やリンチが待っている。昔は、いじめが学校だけだったのが、今は24時間いつでもどこでもの状態に変わったわけです。心の休まる場がなく、クタクタですよ。それで最後に、無理やり脱がされて撮られた裸の写真やネットに載せられ、世界配信されるんですから……死を考えたと思います。

—現代のいじめは暴力も凄惨ですし、恐喝もありますし。このようなことが学校以外で起きたら、ふつうの犯罪だと思えますが。

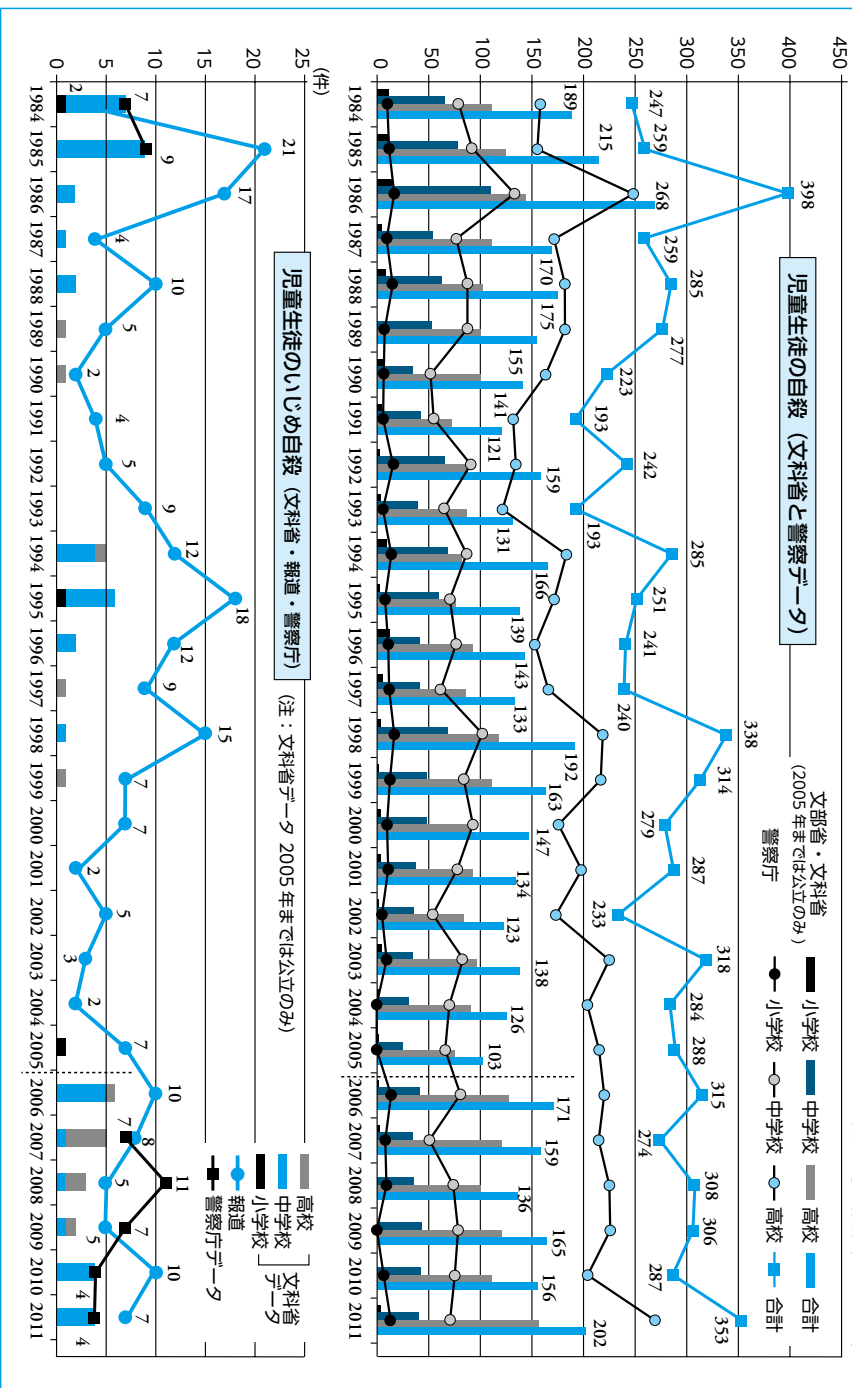
**小森** それが学校で起きると、なぜか  
いじめている子が愛されて  
いる実感が持てたときに  
いじめは止まる

—学校の内側の問題として、いじめが巧妙になっていて発見しづらいのかもしれないと思うのですが。私も、登下校する子どもたちの様子を見ていて、いじめられているのか、ふざけているのか、分かりづらいつきがあります。

**小森** 今の子どもたちは、どこかのグループに所属し続けなければいけない雰囲気になっていて、そのためにはリーダーからの不本意な命令も聞かなければならないんです。聞かなければ、無視されたりしますから。また、子どもは孤独になるのがとても怖いので、多少いじめられてでも、笑いながら一緒に移動教室したりする方が、気がラクなんですね。そして、私がお話しす

図1 児童生徒の自殺統計  
文部科学省(文部省)・報道・警察データベースより

NPO法人エンジェルハートプロジェクト  
武田さち子 作成 (2013/3/12)



る限り、先生たちはいじめを分かっていると言われます。「気がつかないはずがない」と。気がついて、分かっているても、どうしたらいいかが分からないのだそうです。

—小森さんは、どうしたらいいとお考えですか。

**小森** 基本的には、いじめは被害者の問題ではないということを押さえたい。被害者に問題があるからいじめが起きるのではないので、被害者を保護したり、隔離しても終わらない。とはいえ、加害者を警察に突き出して罰を与えれば終わる問題でもないんです。いじめてる子がいじめる行為をやめたときに、いじめられてる子が苦しみから解放されます。いじめてる子が、



学校の講演会では「いじめはいけない」「命は大切だよ」という言葉は使わず、そのままの自分で良いことを伝え、子どもの心を解きほぐしていく

なぜいじめをしてしまうのか、それを考えてみないとなりません。

活動をしてみても、子どもは大人社会の被害者だと本当に思いました。親も学校も、自分のことで手いっぱい。正義より、自分の保身のために、ずるいこともしますし、子どもにそれを教えます。例えば、子どもはいじめがあったことを先生や親に勇気を出して報告しても、大人たちは「いじめはなかつ

た」としてしまう。そして、子どもはそれを見て、大人に対する信頼や希望を失っていきます。

あふれるほどの愛情を受けたことのある子は、それを友達にも与えることができるけれど、まったく愛情を受けたことのない子に、人を愛しなさいといつても意味が分からないはず。DVの家庭に育った子は、欲しいものは暴力で奪っていいんだと、ふつうに思っ

て育ちます。だから、まずやることは、いじめている子の心に寄り添うこと。その子の苦しみや悲しみに寄り添って、心からの謝罪を生み出せるかどうかです。いじめている子が、愛されているということを実感できたときに、いじめ行為は止まるのかなと思います。

—だから、小森さんの講演では「いじめはダメだ」という言葉は使わずに、優しいものになっているんですね。「生



## 講演会で読み上げる小森さんの詩。

### 生まれてきてくれてありがとう

～この詩を香澄へ、  
そしてすべての子どもたちへ贈ります～

ありがとう 生まれてきてくれて  
ありがとう 病気をしたとき、いっぱいいっぱい心配させてくれて  
ありがとう 多くの出逢いをプレゼントしてくれて  
そして楽しい思い出をいっぱいくれて  
ありがとう 生きる意味を考えるチャンスを入れて  
すべての命がいておいしいと感じさせてくれて  
ありがとう お父さんとお母さんが出逢ったこと、  
間違いじゃないって気付かせてくれて  
ありがとう こんな私に子育てさせてくれて  
あなたをこんなに愛させてくれて  
ありがとう 教室の中の子どもたちの苦しさ悲しさを  
いっぱい教えてくれて  
ありがとう 「優しい心が一番大切だよ」  
の言葉を残していつてくれ  
そしてこの言葉を伝える人生をくれて  
ありがとう 15年と7ヶ月私と生きてくれ  
いつかまた逢える楽しみをくれて  
ありがとう お母さんそれまで頑張ってるよ  
ありがとう ありがとう ……  
言い尽くせないたくさんのありがとう  
でもゴメンネ 守りきれなくて  
ありがとう ありがとう ……  
すべての子どもたちへ  
生まれてきてくれてありがとう！

まれてきてくれて、ありがとう」という。それを言われて泣いている子どもたちを見て、子どもたちのつらさが伝わりました。けれど、実際のところ、愛情を知らない子に愛情を分らせるのは、時間がものすごくかかるかもしれませんね。ヘレン・ケラーに「水を教えるように……」。

小森 時間はかかる。でも、それしか

ついてはどう思われますか。大人がよく傍観者も加害者だといいますが。

小森 見ている子たちも、被害者ですよ。かばったら、自分がいじめや暴力にあうかもしれないという緊張感の中で、毎日悲惨ないじめを見ていなきやいけないのですから。苦しんでいる友達を守れない、その無力感や絶望感に疲れきってしまったって、実際に学校を退学してしまう子どももいます。その体

ないと思います。だから、地域でいじめがあつたら、被害者の安全確保は当たり前前なのですが、それよりもっと精神的に加害者の心に寄り添ってほしいんです。いじめの現場を見たら、「コラ、何やってるんだ！ 自分がやられて嫌なことは、やったらダメじゃないか！」じゃなくて、加害者の子にストレスや悩みや問題を抱えてないか、見てあげてほしい。「どうしたんだ、大

験がPTSD（心的外傷後ストレス障害）になって、長く苦しむ子もいます。そういう子は弱いのではなく、まっとうなんです。人が暴力を受け続けている姿を毎日見て、平気になっちゃう方が、怖いですよ。

—まっとうな感性がある子の方が、はじき出されてしまうよ。

小森 WHO（世界保健機関）では、

「大丈夫」って、その子を心配してあげてほしいんです。

やったことの責任を取るのは常識ですが、その子を更生させるプログラムもなく、学校がどうしていいかわからないから警察に引き渡してしまうというのでは解決になりません。またターゲットを変えてのいじめや犯罪が繰り返されるだけです。よく無差別殺人の犯人が「誰でもいいから殺したかった」といいますが、根本はいじめも同じ構造だと思っています。ターゲットは誰でもいい。彼らが本当に殺したいのは自分なんだと思います。犯罪は自殺行為と同じです。実際に「死刑になりたかった」という犯人もいます。大人や自分に絶望して自暴自棄になっている子に「おまえ、何やってるんだ！」って叱るのは、逆効果だと思います。

—いじめを止めないクラスの子たちには自殺を誘発する危険性があるから自殺した子どもの写真や直筆の遺書などを公開してはいけないといっています。でも、それは伝え方の問題だと思えます。私たちは、いじめが原因で天国に行った子どもたちのパネル展をしていて、その子が元気なときの写真や直筆の手紙を、全国で見てもらっています。そのアンケートの中で「死んだらラクそうだと思う」と感想を書く子はひとりもいません。同じパネルを

## 講演後のお願い

※本日中に先生方でご確認をお願い致します。

### ●いじめをしている子へ

講演後、自分の過去の行為や、現在の行為の違い（いじめ）に気づき、つらく心が痛む子どもがいます。

しかし、気づいたからといって急にそのいじめを止めることはできず、しばらく苦しむようです。

いままでいじめ加害者として存在し、クラスでそれなりの立場で君臨していた子どもにとっては、翌日からいきなり優しい子になるのはプライドが許しません。

いじめの内容や頻度は多少違うにしても、翌日から引き続きいじめ行為は続くようです。

そこで、講演後心のバランスが取れず、まだいじめ行為をしている場面に遭遇したら、「何かつらいことはない？ 良かったらいつでも来てね」と、葛藤している心に寄り添っていただければと思います。

いじめている子どももきっと何かの苦しみを抱えていると思いますので、理解者の存在はとも心強いはずですよ。

そのような存在が、いじめを止めるきっかけになるのではないのでしょうか。

指導をしてしまいますと、「やっぱり分かってくれない」との落胆から、逆にいじめ行為がエスカレートすることも考えられます。

### ●いじめを受けている子へ

また、すでにいじめを受けて苦しんでいる子どもがいる場合は、「つらかったよね。解決するまでにはまだもう少し時間がかかるかもしれないけど、もう少し一緒に頑張れる？ いつでもおいで」と、できれば本日中に声掛けてあげてください。

その理由は、いじめを受けて苦しんでいる子は、明日に期待しているからです。

いじめている子たちと一緒に講演を聞いていることから、「反省して、明日からいじめを止めてくれるかもしれない」と期待してしまうからです。

その期待が裏切られたときのショックは、心の傷を深め、時に命にかかわることも想像すべきであると思います。

ですから、少しでもショックをやわらげたいと思います。

学校の先生方に配る、講演後のお願い。子どもたちへの細やかな配慮がうかがえる。

見て、親の方は「死ぬ子は弱い」といいますが、子どもたちは「この子たちは、やり返さない強さを持っていたんだね」といつてくれます。

—やり返さない強さ、ですか。

**小森** そうです。実は結構な割合で親が子どもに「やられたらやり返さない」と教えているのですね。これは、特に調べようとしたわけではないのですが、以前、講演の中で「おうちの人に、やられたらやり返さないといわれている子もいるかもしれないけど」と言ったら、小学生は素直だから「はい！」って、手をあげてしまったんですね。それが半分くらいいた。そんなことが何回かあって、はじめは学校の中で起きているけど、実はじめの種をまいているのは大人なんだと気がつきました。

子どもは素直ですから、親がやり返

—スクールカウンセラーを入れて、その役割を持ってもらおうとする行政の動きがありますが。

**小森** 子どもにとっては、カウンセリングに予約を入れることもじめの対象になるので勇気がいります。先日、カウンセリングに申し込んだ子が予約時間より早く行き「まだ時間じゃないから」とカウンセラーが断りました。これは「今」が重要な子どもにとって命にかかわる間違った対応です。仕事として週1、2回学校に来るだけのカウンセラーを増やすくらいなら、常駐する保健の先生の人数を増やしてもいい。保健室は、被害者が学校内



せと言ったらやり返します。私は香澄にやり返さないことを教えていました。天国に行った子どものご両親にお伺いすると、やはりやり返さない教育をしている方が多かったです。だったらやり返す教育をすればよかったのかというところではないです。やったらやり返すでは、戦争と同じで、永遠に終わらない。

それで、私は子どもたちに「やり返す以外の方法はないかな？ 考えてみてね」と呼びかけています。

—大人の社会を変えるのは大変ですが、素直な子どもたちに訴える方が、問題改善には早いかもしれませんね。

**小森** そうです。子どもは理屈ではなくて、感じてくれますから。ちゃんと向き合えば、命の重みも分かってくれます。だから私たちは子どもたちに講演会で話をする活動を中心にして、同

で逃げ込める唯一の場所ですから。

また、学校の先生になるための教職課程に、はじめについての勉強が、1時間もないのが問題。この時代に信じられないことです。ぜひ、カリキュラムに組み込んでほしいと思います。

—はじめに対して、地域がやれることはありますか。

**小森** あります。親や学校が疲れ果えて、問題がこぼれてしまっているから、国や地域でぜひ子どもを守ってあげてほしい。たとえば、親から愛情を受けられなくても、他人からたくさん愛情をもらえばいいと思うんです。子どもには、みんな愛されてる実感を持って、人を愛して、生きていってほしいと思います。

—はじめで娘さんを亡くされて、よくその境地に立たれましたね。

時にその周りにいる先生方に呼びかけています。大人全般を変えるのは大変なので、まずは学校から変えていきたいと思います。

### 注意よりスポンジのよう 話を聞いてほしい

—先生方がはじめの現場で絶対やってはいけないことと、反対にやってほしいことを教えてください。

**小森** 特にやめてほしいのが、「コラ、ダメだろう！」と一方的に加害者を責めることや、当事者同士を連れてきて「どっちも悪い、仲直りしなさい」という喧嘩面成敗です。叱ったり、解決を急ぐのではなく、生徒たちの気持ちにまず寄り添うことが大事です。そして、批判や注意をせずに、スポンジのように子どもたちの話をとことん聞いてあげてほしいんです。それだけでも、状況はかなり変わると思います。

**小森** 自分の子どもには間に合わなかったけど、せめて次の命は守りたいんです。そして本当に被害者を守りたいから、加害者の問題を解決しなければならぬんです。加害者に寄り添うことなしに、じめの解決はできない。いじめられてる子もいじめてる子も、大人社会の被害者です。苦しんでいる姿を想像するだけで、守らなければならぬ責任を感じます。いじめてしまう子に「そんなにがんばらなくて大丈夫だよ、あなたはひとりじゃないよ」って伝えたい。そこに帰着できないと、被害者の心と命は守れないと思っています。

### 小森さんの最新刊



「いじめのない教室をつくらう」  
WAVE出版 1,260円